

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	宇治福祉園 放課後等デイサービス事業所 みんなのき ゆう		
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日 ～ 令和8年2月14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	18
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日 ～ 令和8年2月14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	木工活動(ノコギリや釘打ち等)に加え、様々なリサイクル素材を活用することで、子どもが素材の特性を感じながら発想を広げ、主体的かつ創造的に制作活動に取り組むことで表現する喜びや自己肯定感の育み、仲間同士のイメージを共有し協力し合える環境を提供できる点。	子どもの「遊びたい、表現したい」という思いを尊重し、必要な道具やリサイクル素材を可能な範囲で準備するとともに、子ども自身がどのようなイメージ抱いているのかを具体的に言葉等で表現できるよう支援し、その想いに沿った素材・環境を提供することで、主体的かつ創造的な制作活動が展開できる環境を整えている。	子どもの興味関心、創造に応えられるよう、職員の専門性や知識を深めるとともに、創作活動に活かせるリサイクル素材等の種類や量をさらに充実させ、子どもが自ら考え、主体的かつ創造的に創作に取り組める環境を継続的に整えていく。
2	車で15分圏内の法人所有の自然の家や周辺の公園・河川敷また法人が運営する認定こども園と連携し、併設園や別拠点の園庭・森などの安全に配慮された環境を活用することでなど、多様な自然環境に恵まれており、子どもたちが自ら選択し、五感を使って体験を深められる自然体験の機会を提供できる点。	安全に配慮しつつ、子どもが安心して主体的に体験を選べるよう環境を整え、活動場所や内容を固定せず、季節や子どもの興味・状態に応じて自然体験など『原体験』を最重要視した機会を工夫して提供している。【デジタルの時代だからこそその『原体験』の充実】	職員間で活動場所や自然環境の情報を共有し、子どもにとってより多様で豊かな体験が得られるよう活動の選択肢を広げ、自然体験を通じた主体的な学びをさらに『原体験』の充実を図る。
3	子どもと大人の誰もが日常の幸せを創造していく 保護者の不安や悩みまた、喜び等気軽に相談できる場や人材を確保し、必要に応じて学校とも敏速に連携がおこなえるネットワークが構築されている。 ・ひなたぼっこ(保護者同窓会)の定期開催(年間11回)	保護者との定期的な面談の実施 電話・メール・ノートなど発信源の活用 多職種連携⇒学校、教育委員会、行政機関、児童相談所、ひなたぼっこ(保護者同窓会)などニーズに応じたネットワークの構築がなされ速やかな連携が可能となっている。	日々の報告等のコミュニケーションを通じて気軽に保護者の思いが発信できるように保護者との関係性を深めていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所周辺の交通量が多く、子どもの飛び出しや送迎時の安全確保に常に注意が必要である点。	道路環境や交通量の多さ、送迎時の人数制限により、職員が目配る負担が大きく、安全確保が難しい場合がある。	送迎や外遊びの際に職員の配置や役割分担を工夫し、目の届く範囲を明確にするほか、安全確認の手順や声かけのタイミングを統一することで、職員だけで安全を確保できる体制を整えていく。
2	長期休み中において、預かり時間の延長を行う期間が限定されている点が課題である。	職員の人数や勤務時間の都合上、長期休み期間中に通常以上の預かり時間を設けることが難しい状況にある。	職員の勤務体制や日程の工夫を行い、長期休み期間中でも安全かつ円滑に預かりが行える体制を整えるとともに、保護者の希望に応じた対応方法の検討を進める。
3			